

# 子ども樹木博士実施記録

富澤まり

平成15年7月22日(火)、23日(水)に親子植物体験教室(小1～3)にて「子ども樹木博士」プログラムを実施したので報告する。

## 子ども樹木博士とは

子どもに対する環境教育の一貫として、全国で実施されている樹木の名前をおぼえる自然体験プログラムである。おぼえた樹木の名前の数に合わせて樹木博士の実力が認定され、認定証を与える。1種類をおぼえると10級、2種類で9級、11種類で初段である。子どもの野外と自然への興味を引きだし、親子がふれあう機会を作るのが目的である。「子ども樹木博士」認定活動推進協議会が手法をホームページなどで公開している。

## 事前学習会

開催にあたり、実施者側の事前学習会を行った。講師は、広島県林業技術センター企画普及部専門技術員 長井稔氏に依頼した。当園職員及びガイドボランティア約50名が参加し、子どもを対象に観察を行うときの注意点や工夫などについて学んだ。

## 開催結果

第1日目は21組48名、第2日目は26組60名、小学校低学年の子どもとその保護者の事前応募があった。学年別に5班にわけ、各班をガイドが一人ずつ担当した。日程は以下のとおりである。午前中は、ガイドボランティアによる樹木観察を行った。その際、午後の認定試験出題の樹種10種を中心にその特徴を子供たちにわかりやすく楽しく解説した。各ガイドが解説用に小物(オソマツ君のバッジをアカマツの解説に使ったり)を用意したり、パネルを作ったりと工夫を凝らしていた。樹種は、対象が低学年ということや、植物公園らしさということで、広島にちなんだ樹種(クスノキ、アカマツ、モミジ) 熱帯植物(カカオ)のほか、イチヨウ、ケヤキ、マテバシイ、カツラ、ツバキ、スギを選定した。

認定試験は、各テーブルに番号だけをつけた実物を配布し解答用紙に植物名を記入する方式で行った。保護者は、子どもとは別テーブルで受験した。このプログラムでは、認定試験は厳正に行うので、ヒントなどは一切与えられない。ひらがなを覚えての1年生には、記入方式の試験は厳しく感じられたようだ。

1日目は、ほとんどの子どもが、10種類を全部答えることができるようになった。しかし、2日目は樹木観察時に大雨が降ったため、十分な観察ができず、正解率は大幅に下がった。ガイドは両日ともほぼ同じだったので、

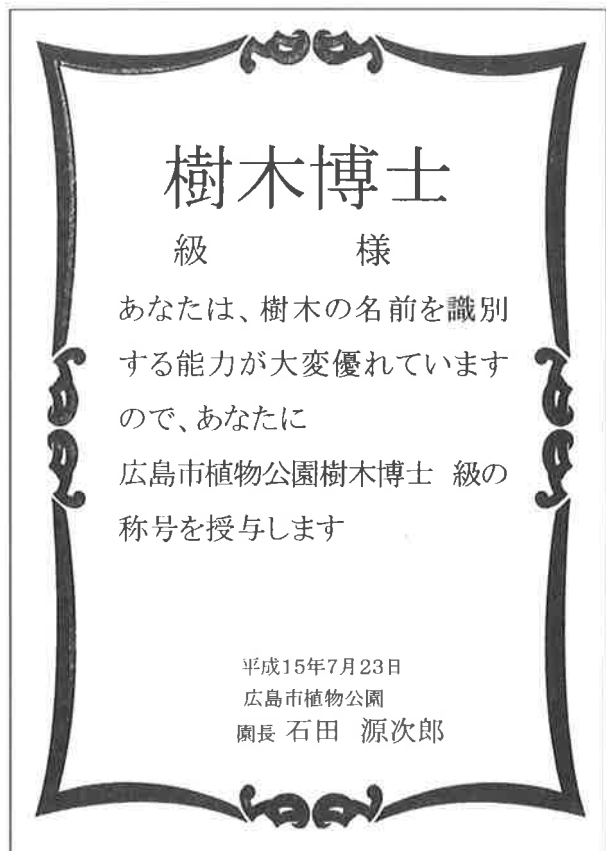
天候による影響が大きかったと考えられる。

試験があるということで、子どもも保護者もガイドも午前中の観察に熱が入ったようだ。なかには、試験を嫌うむきもあるが、目標があることで興味を引き出すことができ、回数を重ねれば、級が上がる喜びもあると思われる。

今後は、樹木に興味をもつ大人用に応用することなどが考えられる。

7月22日(火)、23日(水)のタイムスケジュール(両日とも同じ内容)を以下に記した。

時間	内容
10:00	受付開始
10:30	開校式
10:40	樹木ウォッチング(樹木観察) ★植物公園のガイドボランティアと一緒に園内の植物を観察します。
12:00	昼休みと試験の予習
13:00	子ども樹木博士認定試験
13:30	葉脈標本作り(この間に、採点と認定証の記入を行った)
14:30	樹木博士認定とアンケート記入
15:00	解散



認定証